

# 新型コロナウイルス感染症 について

令和3年1月25日

神戸市保健所予防衛生課

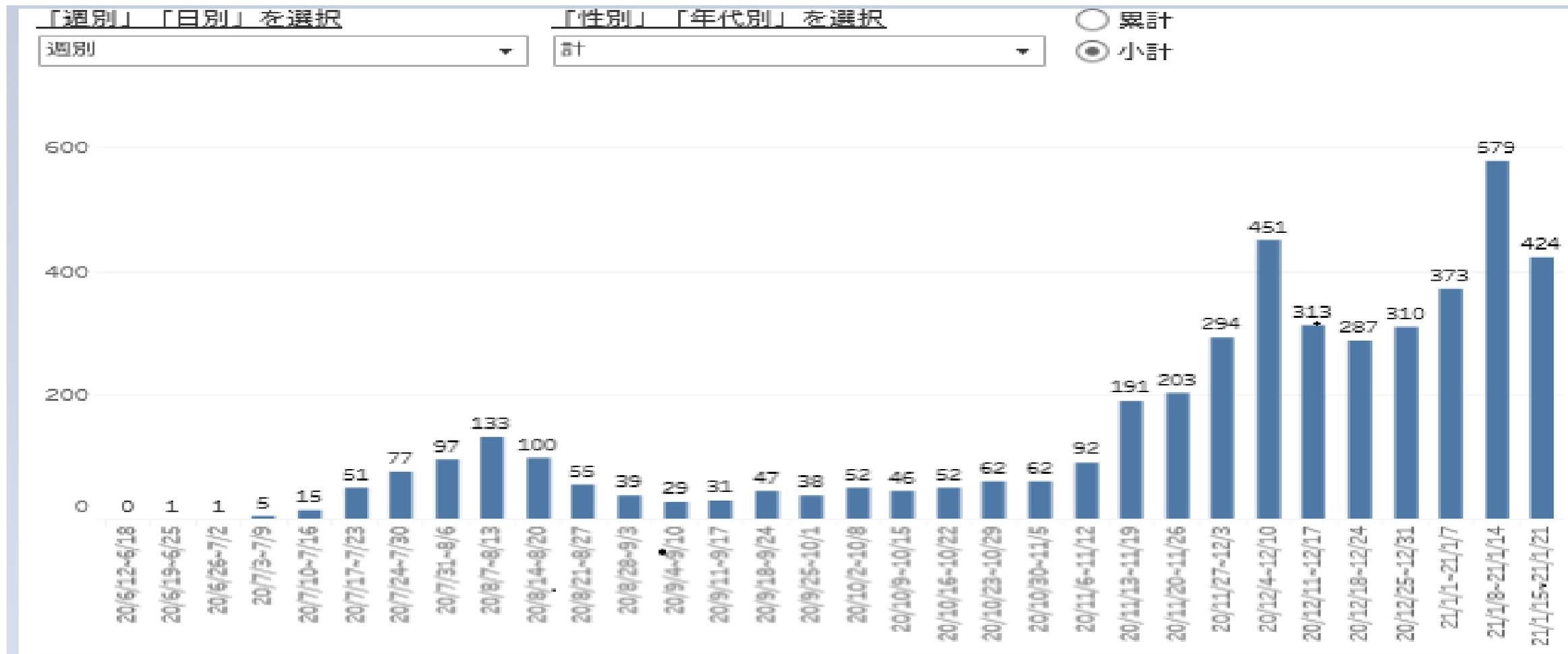


# 本日の流れ

- 1 神戸市での発生状況
- 2 新型コロナウイルス感染症とは
- 3 感染予防・対策について



# 1 神戸市での患者発生状況



→ (自分も含めて) **全ての人が感染していると考えて** 対応するのがよい



## 2 新型コロナウイルス感染症とは

「新型コロナウイルス」は風邪様症状を引き起こすコロナウイルスのひとつです。

発症すると、発熱、咳、全身倦怠感等の風邪様症状が出現します（様々な症状が出現します）。発病しても約8割は軽症で経過し治ります。（無症状のうちに治る人もいます）

一部のものは、主に5~14日間で呼吸困難等の症状が現れ、肺炎になる場合があります。高齢者および基礎疾患がある方においては、重症化するリスクが一定あるとされています。



# 潜伏期間と感染可能期間

## ①潜伏期間

1～14日（平均は約5日） ※WHO 情報より

※感染の可能性（患者との濃厚接触）があった最終日から、2週間は発熱や風邪様症状の出現に注意し、不要不急の外出を控え、自宅で過ごします。

## ②感染可能期間

発熱・咳・呼吸困難等の急性の呼吸器症状など新型コロナウイルス感染症を疑う症状が出現した2日程度前（無症状の時）から感染します。 \* 発症の前日と発症後数日が最もウイルスが多く排出されます。



# 感染の仕方

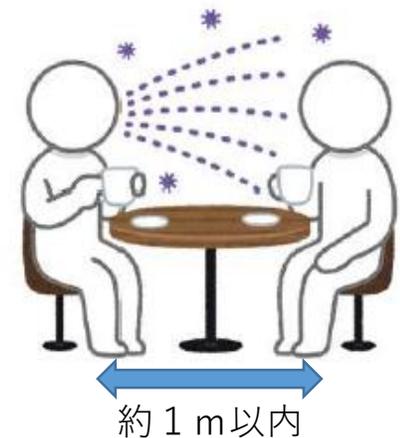
飛沫感染、接触感染で感染します。

(季節性インフルエンザと同じです)

## ①飛沫感染

感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染します。（咳1～2m くしゃみ5～6m飛散）

※換気が不十分で、狭い空間などでは、比較的長い時間ウイルスが空気中に漂うことがあると言われています。



## ②接触感染

**\* 人から人へ最も多い感染経路です**

感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の人がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で目や口や鼻を触ると粘膜から感染します。

直接接触：握手、抱っこ

間接接触：ドアノブ、手すり、蛇口、おもちゃなど

健康な皮膚に付着しただけでは、ウイルスは皮膚から体内には入りません。



# 新型コロナウイルスはどれだけ生きる？

物の表面についたウイルスは時間がたてば死滅します。ただし、物の種類によっては24時間～72時間くらい感染する力をもつと言われていています。

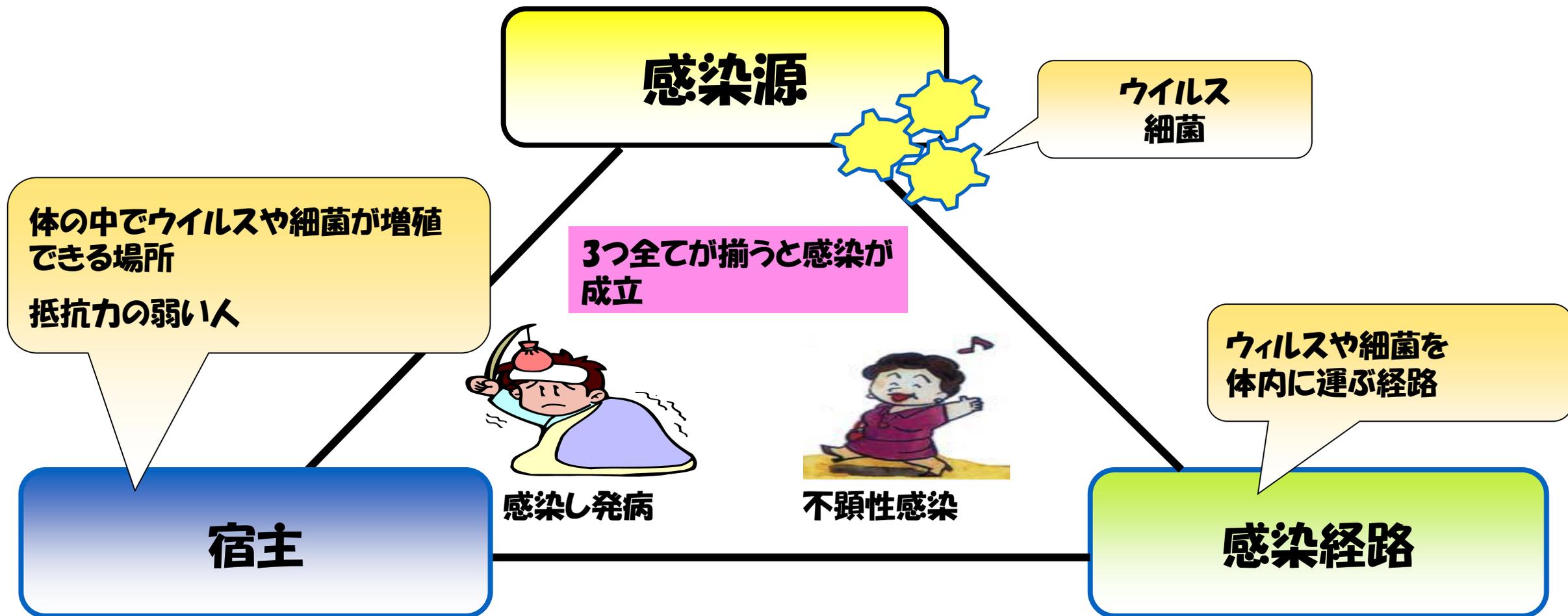
○段ボールの表面では1日程度

○プラスチックの表面では3日程度

※空気中に浮遊し続けません。



# まずは知ろう！感染のしくみ



### 3 感染を拡げないために

(1) つけない

(2) あげない

(3) もらわない



# (1) つけない：接触感染予防

## ①手洗いの5つのタイミング

外から帰った時（送迎車内に入る前等）、咳やくしゃみ、鼻をかんだ後、食事の前後、外にあるものを触ったとき、病気の人をケアしたとき

## ②正しい手洗いの方法を覚える

- ・10秒もみあらい、流水で15秒以上洗い流す
- ・手をふくのは個人タオルかペーパータオル
- ・手洗い・アルコール消毒は、指先、指の間、手首までしっかりと

## ③すべての職員が正しい手洗い，予防方法を身につけましょう

- ・1ケア1手洗い、ケア前後の手洗い
- ・ケア時の手袋、エプロンの使い方にも気をつけましょう



## (2) あげない：飛沫感染

### ①咳エチケット

- ・咳が出なくても、マスクをつける⇒みんなといるときは特に！
- ・咳やくしゃみが出るときは、口を手で覆い、人のいない方向を向けてする習慣を。
- ・くしゃみやせき，鼻水をふいた後はすぐに手を洗う。

### ②室内の定期的な換気

窓は2方向開ける、1時間に2回

窓が1つしかない場合は、換気扇、扇風機などで換気の流れをつくりましょう。

### ③飛沫感染を避ける環境づくり

- ・食事の時は，横ならびなど対面を避ける
- ・マスクを外して体を動かすときは，2mは距離をあける など



## (3) もらわれない：宿主対策

### ①利用者や職員の体調の管理

- ・利用前、利用中の体調管理

- ＊利用者のお迎え時や職員が体調不良が分かった時に連絡、交代できる体制について事前に決めておきましょう。

- ＊こまめに学校、家庭、地域の感染状況の情報を得ましょう。

### ②体調不良時の静養場所、隔離スペースの確保

咳や鼻水などの症状があるときに、離れて過ごせる場所を決めておきましょう。

### ③感染させにくい環境づくり

- ・利用者の行動にあわせて消毒場所、消毒回数を決めましょう。

- ・ポスターやシール、鏡などの視覚的な媒体を取り入れて感染予防（手洗い、咳エチケット、人との距離など）の習慣をつける



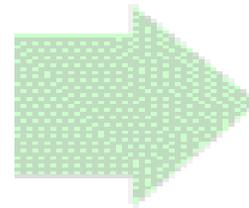
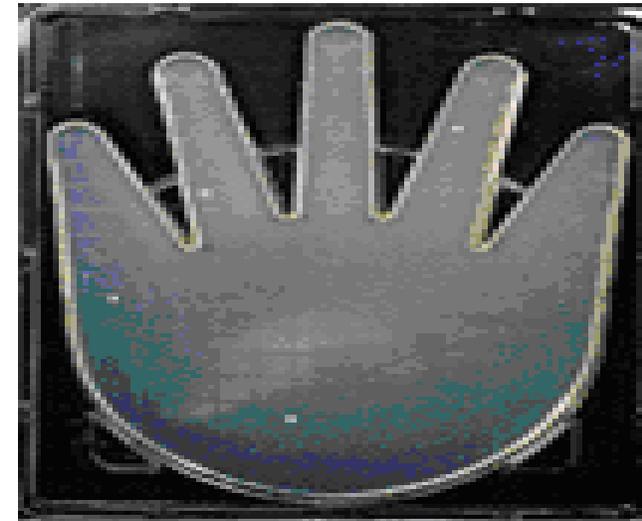
# 手洗いが感染予防の基本

手には見えない菌がたくさん潜んでいます！

手洗い前

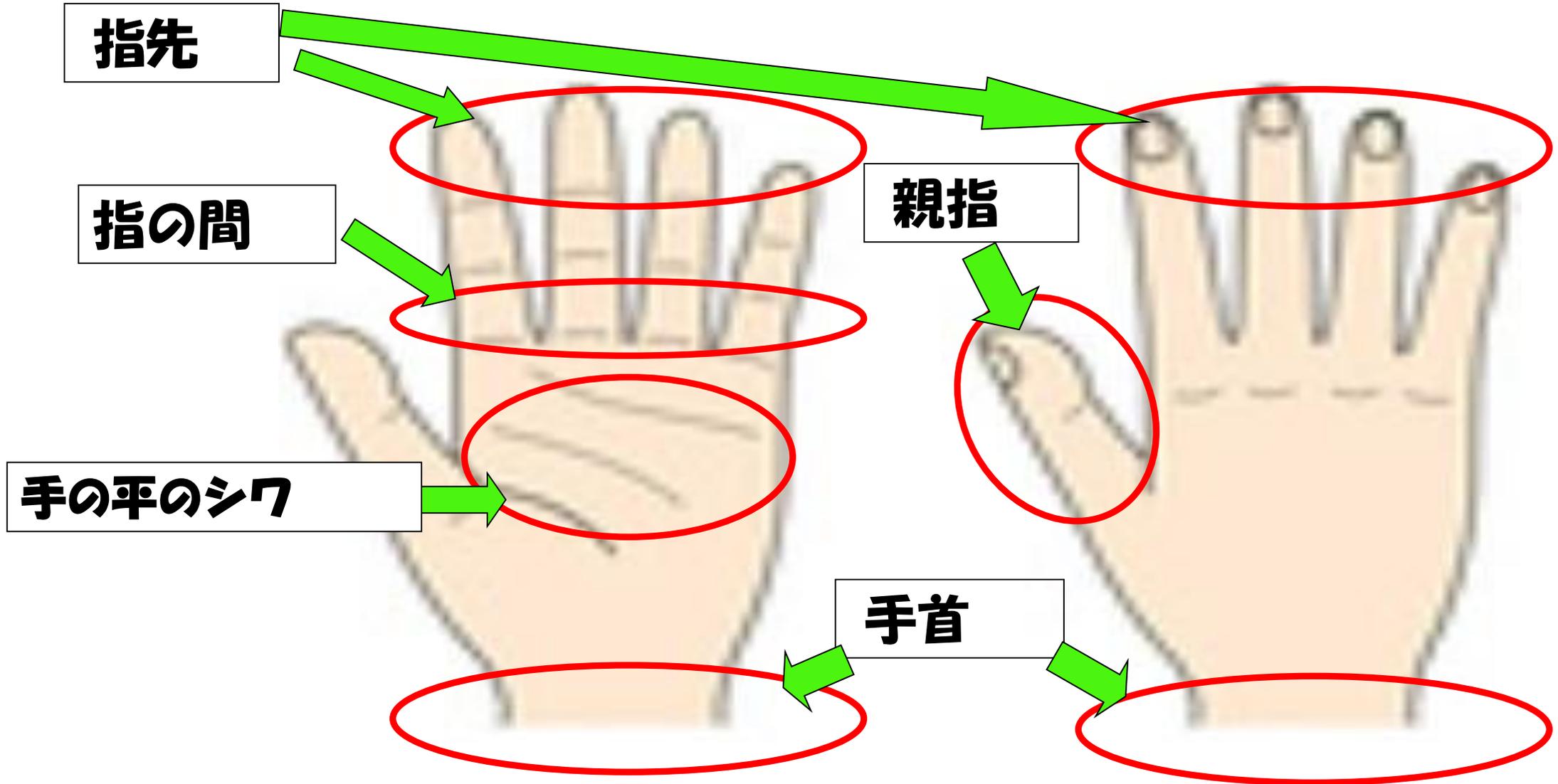


手洗い後



※白い所は細菌の付着状態

# 洗い残しの多いところ



# 手洗いの手順

チェック

爪は、短く切っていますか  
時計や指輪は、はずしていますか

①手のひら



②手の甲



③指先・ツメの間



④指の間



⑤親指と手のひら



⑥手首



# 新型コロナウイルスはどれだけ生きる？

物の表面についたウイルスは時間がたてば死滅します。ただし、物の種類によっては24時間～72時間くらい感染する力をもつと言われていています。

○段ボールの表面では1日程度

○プラスチックの表面では3日程度

※空気中に浮遊し続けません。



# ウイルスの除去について

## ○手についたウイルス

- ・石鹼による手洗いで除去（十分な水洗いが大切）
- ・アルコール消毒薬（約70~80%）による消毒

## ○物についたウイルス

消毒薬による拭き取りで除去

- ・アルコール消毒薬（約70~80%）
- ・次亜塩素酸ナトリウム溶液（キッチンハイター等）の希釈液（0.05%）



石けんやハンドソープを使った  
丁寧な手洗いを行ってください。



手洗いを丁寧に行うことで、  
十分にウイルスを除去できます。  
さらにアルコール消毒液を  
使用する必要はありません。

手洗い		残存ウイルス
手洗いなし		約 100 万个
石けんや ハンドソープで 10 秒もみ洗い後 流水で 15 秒すすぐ	1 回	約 0.01% (数百個)
	2 回 繰り返す	約 0.0001% (数個)

(森功次他：感染症学雑誌、80:496-500,2006 から作成)



食器・手すり・ドアノブなど身近な物の消毒には、アルコールよりも、熱水や塩素系漂白剤、及び一部の洗剤が有効です。



食器や箸などは、80℃の熱水に10分間さらすと消毒ができます。火傷に注意してください。



濃度 0.05% に薄めた上で、拭くと消毒ができます。ハイター、ブリーチなど。裏面に作り方を表示しています。

※目や肌への影響があり、取り扱いには十分注意が必要です。  
※必ず製品の注意事項をご確認ください。  
※金属は腐食することがあります。



有効な界面活性剤が含まれる「家庭用洗剤」を使って消毒ができます。NITE ウェブサイトで製品リストを公開しています。

[NITE 洗剤リスト](#) 検索

[こちらをクリック](#)



噴霧のみではだめということをおちゃんと雷う



# 次亜塩素酸ナトリウム溶液の作り方

(次亜塩素酸ナトリウム5～6%の原液を使った場合)  
ペットボトルのキャップ1杯は約5ml

	作り方
約0.05% 次亜塩素酸 ナトリウム	500ml = 水 + 原液5ml (ペットボトルキャップ1杯)  + 



# 消毒のポイント・注意点①

<消毒を行うところ>

- ・ドアノブ、電気のスイッチ、電話の受話器、パソコンテーブル、引き出しの取っ手、ペンなどの筆記用具、トイレの水洗レバーなど、皆がよく触る箇所を中心に拭き取りを行う。

<消毒時の準備物品>

- ・手袋、マスク、（エプロン）、
- ・消毒薬、使い捨ての布またはペーパータオル
- ・ビニル袋



# 消毒のポイント・注意点②

## <注意点>

- ① マスクやゴム手袋等を着用し、換気をよくする。
- ② 消毒液が目に入った場合は15分以上流水で洗い、眼科に受診してください。（受診時には消毒薬のボトルを持参すること）
- ③ 次亜塩素酸ナトリウムは、金属腐食性があるため、消毒薬で拭き取った後、しばらく置いた後、金属部分については水拭きする。



## 5 利用者や職員が感染した時の対応について

- 診断した医師が保健所に発生届を提出
- 居住地の保健所(保健センター)が感染者に聞き取り調査を実施
- 職場の所在地保健所(保健センター)が職場調査を実施
- 濃厚接触者に対して、PCR検査を実施し、2週間の自宅待機と健康観察を依頼

～職場調査にご協力ください～

- ・ 職場の環境面や日ごろの感染対策（マスクの着用や消毒等）
- ・ 感染者の従事状況や接触者の状況
- ・ 職場の従業員の健康状態（他に有症状者がいないか） など



# 濃厚接触者とは

「患者」の感染可能期間に接触した者のうち、次に該当する者。

- 同居あるいは長時間接触（車内、航空機内等含む）があった者
- 標準予防策（マスク・手洗い等）をとらずに、診察・看護・介護を行っていた者
  - ※ 標準予防策をしていれば診察等していても濃厚接触者になりません。
- 唾などの気道分泌液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者



○「その他：手で触れることの出来る距離（目安として1メートル）で、（マスクなどの）標準予防策なしで、「患者」と15分以上の接触があった者

（周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を保健所が総合的に判断する）。

※原則としてマスクを着用していれば濃厚接触者になりません。



# 事前に決めておくこと

- 職員から職場に連絡する方法
- 保健所と調査等について調整する窓口
- 利用者と事業者の窓口



# まとめ

- 誰もが罹り得る疾患であると思って対策しましょう
- 感染して発病しても、ほとんどが10日経てば人に感染させない状態になります。
- 感染して怖いのは、重症化することです。基礎疾患のある人や高齢者に感染させないように配慮しましょう。
- 感染したからと言って仕事を辞める必要はありません。
- 手洗い、咳エチケット、換気が一番大事です。



## 参考資料

- ・ 新型コロナウイルス感染症患者に関する積極的疫学調査実施要領 国立感染症研究所 感染症疫学センター
- ・ 新型コロナウイルス感染症 診療の手引き 第4版
- ・ 新型コロナウイルス対策の手引き（第4版）  
< 障害（児）施設（入所系・通所系） >  
神戸市 福祉局 障がい者支援課 令和2年10月15日 **New !**